

国語 (A1日程)

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

大学で若者に写真を教えるようになって、もうすぐ10年が経つ。その日々の中で、常に考えていることがある。そもそも写真は教えられるのか、という根本的な問いだ。もちろん、技術を教えることは確実にできる。その習得はそれほど難しいことではない。経験は偉大だ。昨日より今日の方が確実に向上する。

では、なぜそんな疑問を抱くのか。写真にはあらかじめ答えが用意されていないという一言に尽きる。だからこそ、学生に対して次のように繰り返し伝えている。

「答えはどこにもない。自ら作り出すものである」

こう考えるようになったのは、大学で日常的に教えるようになってからだ。実はそれまで、「写真の答え」について深く考えたことはなかった。現役の写真家にとってはあまり考える必要がないからだ。

(中略)

教え始めて2年目に私はある経験をした。それは、いまとなつては反省すべき「勇み足」だったといえる。その頃、私は学生作品を何とか完成させたいという思いが強すぎたのかもしれない。強引さがあった。

一人の学生が祖父母の姿を撮影していた。祖父母は東京の郊外で農家を営んでいて、学生はその姿を追った10枚ほどの組写真を制作していた。日常を追うポルタージユの手法で撮られたものだ。

その写真を学生から何度か観せてもらったのだが、そのたびに何か足りない気がした。農作業をしている姿はよく撮れているのだが、祖父、祖母の顔がきちんと写っておらず、どんな人柄なのかよくわからないのだ。加えて、どんな作物を作っているのかもきちんと撮られていない。さらに、その畑がどんな場所にあるのかもよくわからなかった。郊外だという点がとても重要で、そこをしっかり見せる必要があると私は感じていた。それらが、写真からは一切伝わってこなかった。だが、よく観ると、数枚の写真の背後には真新しい住宅が小さく写っていた。私はそこにヒントがあるような気がした。

「東京の郊外ということを、もっと強調してもいいのでは？」

そうアドバイスしてみた。例えば広角レンズを使って、畑全体と背後の住宅が入るような撮り方。じっくり両者のコントラストを強調すること。

A 祖父母の顔がきちんと写っていることが大事なのではないか、とも伝えた。人は、人の姿を写真

の中に認識したとき、男性なのか女性なのか、年齢はいくつくらいか、どのような人柄なのかということを知りたくなる。そんな欲求が必ず芽生える。少なくとも私はそう考える。ちなみにこのことは、雑誌などの絵ときの手法でもある。この種の雑誌の仕事では、私はこのことを常に意識して写真を撮っている。

「例えばテレビドラマで、主人公の顔がよくわからないままストーリーが進んでいったとしたら観る側はどう思う？ 途中で観ることをやめたくならない？ 感情移入できる？ どんな野菜が採れるのか、何を作っているのかを観る側は知りたくないならいい？」

すると、その学生は思ってもみない反応を示した。

「先生の言う通りに撮ったら、それは先生の作品になりませんか？」

あまりに意外な答えで言葉に詰まった。私はもし自分がこの作品の作者だったら、あるいはその場にいたらどう撮るだろうかとはばかり考えていた。そのことに初めて気がついた。自分流の撮り方をした方が、明らかに現在のものより伝わりやすい作品ができることは間違いないという確信があった。

このとき、私の中には明らかに答えがあった。自分の答えが唯一と信じてもいた。自信も持っていた。だから、どうしてそんなふうには撮ってこないのだろうか、という **B** があった。言った通りに撮ればいい作品になるのに、という思いが先走りしていたともいえる。

では、この作品を撮っている学生の答えは私と同じだろうか。ふと立ち止まって考えてみた。もしかしたらまったく違うかもしれない。このとき、初めて疑問が湧いた。そして私は自分の答えを強引に押し付けていたことに初めて気がついた。

結果として、この学生の作品は完成度の高いものにはならなかったが、この一件は私に大きな気づきを与えてくれた。答えは一つではない。さらに、たとえ自分の中に答えがあったとしても、それを人に押し付けてはいけない。同時に、その答えを簡単に口にはいけないと考えるようになった。本人の中から答えが生まれるのをじっと待つ必要がある。その後は、このことを心がけるようにした。

C、自分の答えを口にしたくなって喉元まで出てくることは何度もある。そんなときにはじっと耐える。

この一件以降、学生の側から何も明確な答えが浮かんでこないときや、助け舟を求められたときに初めて、あくまで自分だった

らと前置きしたうえで、「こう撮るだろう」と口にするようにしている。例えば「背後の住宅街を強調したら、これまでとどう違って見えるか考えてみて」とだけ伝えて、その先は本人にゆだねる。少なくとも、助言を求められていない初期の段階では言うべきでない。

作品を作る上で重要で意義のあることはプロセスだ。思考の過程だ。写真はシャッターを押さえれば誰でも撮ることができ、勝手に生まれる。だからこそ、深く考える必要がある。そこで私が口を挟んでしまえば、その最も大切で面白みのある部分を奪ってしまうことになりかねない。

技術的なこと以外で教えられるのは行動を促し、背中を押すこと、さらに自分にはこんなふうに見えるという感想や意見、そして情報を的確に伝えることくらいのことかもしれない。

(出典 小林紀晴「写真はわからない 撮る・読む・伝える―「体験的」写真論」光文社による)

問一 〰〰〰線 a 「住宅街」は「住宅+街」という組み立てになっています。これと同じ組み立ての三字熟語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 合言葉 イ 非通知 ウ 優先席 エ 天地人 オ 小細工

問二 **A**・**C**に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア AⅡなぜなら CⅡつまり
- イ AⅡけれども CⅡたとえば
- ウ AⅡだから CⅡむしろ
- エ AⅡさらに CⅡそれでも
- オ AⅡすると CⅡもし

問三 **B**に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 楽しさ イ 勇ましさ ウ 歯がゆさ エ 恐ろしさ オ 堅苦しさ

問四 — 線1「そんな疑問」の指す内容を本文中から二十四字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問五 — 線2「何が足りない気がした」とありますが、学生の写真に必要だと感じていることとして、適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 農作業をしている祖父の顔をきちんと写すこと。

イ どんな作物を作っているのかが分かるようにすること。

ウ 祖父の畑がある場所が郊外であることを示すこと。

エ 畑全体と背後の住宅のコントラストを強調すること。

オ 祖父の日常を写真に撮る学生自身の姿を入れること。

問六 — 線3「この一件は私に大きな気づきを与えてくれた」とありますが、どのようなことに気づいたのですか。五十五字以内で説明しなさい。

問七 — 線4「最も大切に面白みのある部分」とは何ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 作品の完成度

イ 思考の過程

ウ 情報の伝達

エ 技術の習得

オ 撮影の助言

問八 本文中に表れている筆者の考えを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア テレビドラマでは主人公の顔がよく分からなくても、想像でおきなえば十分に楽しめる。

イ 写真を撮る技術を教えるのは容易なので、現役カメラマンが学校で教える必要はない。

ウ 写真に人物が写っていると、見る人は個人情報を集めて正体を明らかにしたくなる。

エ 写真にはあらかじめ答えが用意されているわけではなく、自分で作り出すしかない。

オ 学生が筆者のアドバイスを聞き入れなかったのは、教え方が古くさかったからである。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

昼ごはんを食べ終えて歯を磨いた後、壮太が母親と一緒に病室にやってきた。壮太の母親は大きなバッグを持ち、壮太もリュックを背負っている。

「いろいろお世話になりました」

壮太の母親は、はくとはくのお母さんに頭を下げた。

「ああ、退院ですね。お疲れさまでした」

はくのお母さんが言った。

「瑛介君に仲良く遊んでもらって、入院中、本当に楽しかったみたいで」

「うちです。壮太君が来てくれてよかったです」

お母さんたちがそんな話をしている横で、はくたちはお互い顔を見合わせて、かといって今この短い時間で話す言葉も見当たらず、ただなんとなく笑った。

「行こうか。壮太」

母親に肩に手を置かれ、

「瑛ちゃん、じゃあな」

と壮太は言った。

「ああ、元気でな」

はくは手を振った。

壮太は、

「瑛ちゃんこそ元気で」

そう言って A 背を向けると、そのまま部屋から出て行った。

¹「フロアの入り口まで見送ればよかったのに」。案外二人ともお別れはあっさりしているんだね。ま、男の子ってそんなもんか」

とお母さんは言った。

お母さんは何もわかっていない。あれ以上言葉を発したら、泣きそうだったからだ。きっと壮太も同じなのだと思う。もう一言、言葉を口にしたら、あと少しでも一緒にいたら、さよならができなくなりそうだった。口や目や鼻。いろんなところが熱くなるのをこらえながら、ぼくは「まあね」と答えた。

B

壮太がいなくなったブレイルームには行く気がせずに、午後は部屋で漫画を読んだ。時々、壮太は本当に帰ったんだな、もう遊ぶことはないんだなと気づいて、ぼつかり心に穴が空いていくようだった。これ以上穴が広がったらやばい。そう思って、必死で漫画に入り込もうとした。

二時過ぎからは診察があった。この前の採血の結果が知らされる。

「だいぶ血小板が増えてきたね」

先生は優しい笑顔をほくに向けて、さもビッグニュースのように、

「あと一週間か二週間で退院できそうかな」

と言った。

「よかったです。ありがとうございます」

お母さんは頭を下げた。声が震えているのは本当に喜んでいからだろう。

やっとゴールが見えてきた。ようやく外に出られる。それはうれしくてたまらない。だけど、どうしても確認したくて、

「一週間でですか？ 二週間でですか？」

とぼくは聞いた。

「そこは次回の検査結果を見てからかな」

先生はそう答えた。

「はあ」

「どっちにしても一、二週間で帰れると思うよ」

先生は、「よくがんばったからね」と褒めてくれた。

一、二週間。ひとくくりにしてもらっては困る。一週間と二週間では、七日間も違うのだ。七日後にここを出られるのか、十四日間ここで過ごすのかは、まるで違う。ここで一日がどれほど長いのかを、壮太のいない時間の退屈さを、先生は知っているのだろうか。ぼくら子どもにとっての一日を、大人の感覚で計算するのはやめてほしい。

お母さんは診察室を出た後も、何度も「よかったね」と言った。ぼくは間近に退院が迫っているのに、時期があやふやなせいとか、気分は晴れなかつた。明日退院できる。それなら手放して喜べる。だけど、一週間か二週間、まだここでの日々は続くのだ。

がっかりしながらも、病室に戻る途中に西棟の入り口が見えて、ぼくは自分が嫌になった。何をせたく言っているのだ。遅くとも二週間後にはここから出られるし、ここでだって苦しい治療を受けているわけじゃない。西棟には、何ヶ月も入院している子だっているのだ。それを思うと、胸がめちやくちやになる。病院の中では、自分の気持ちをどう動かすのが正解なのか、どんな感情を持つことが正しいのか、よくわからなくなってしまふ。

就寝時間が近づいてくると、やっぱり気持ちを抑えきれなくなってブレイルームに向かった。真っ暗な中、音が出ないようマットに向かっておもちゃ箱をひっくり返す。三つの大きな箱の中身をぶちまけるのだ。ただそれだけの行為が、ぼくの気持ちを保ってくれた。悪いことだとはわかっている。でも、こうでもしないと、ぼくの中身が崩れてしまふそうだった。いつも、翌朝にはおもちゃは片付けられ、きれいにブレイルームは整えられている。きつと、お母さんが直してくれているのだろう。それを思うと、ひどいことをしてるよなと申し訳ない。だけど、何かしないと、おかしくなりそうです止められなかった。

三つ目のおもちゃ箱をひっくり返し、あれ、と思った。布の箱から、がさつと何かが落ちた。硬いプラスチックのおもちゃの音とはちがう。暗い中、目を凝らしてみると、紙飛行機だ。ぼくは慌てて電気をつけた。

壮太だ……。赤青黄緑銀金、いろんな色の折り紙で作った紙飛行機は、三十個以上はある。片手に管を刺して固定していたから、使いにくい手で折ったんだろう。形は不格好だ。それでも、紙飛行機には顔まで描かれていて、「おみそれ号」「チビチビ号」「瑛ちゃん号」「またね号」と名前まで付いている。

壮太は、知っていたんだ。ぼくが夜にブレイルームでおもちゃ箱をひっくり返していたことを。そして、壮太がいなくなった後、

4 ぼくがどう過ごせばいいかわからなくなることも。

明日から、一つ一つ飛ばそう。三十個の紙飛行機。これを飛ばしている間、少しは時間を忘れることができそうだ。
(出典 瀬尾まいこ『夏の体温』双葉社による)

問一

□ A・Bに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア AⅡくるりと BⅡじんと
- イ AⅡふわりと BⅡびんつと
- ウ AⅡさらりと BⅡどんと
- エ AⅡひやりと BⅡきらつと
- オ AⅡそろりと BⅡさつと

問二

~~~~線 a「ぼっかり心に穴が空いていく」とありますが、どのような感覚をたとえたものですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 体が疲れてだるい感覚
- イ 体が固くなりおびえる感覚
- ウ 悪いことをしたという感覚
- エ 大切なものを失った感覚
- オ 温かい親しみを持つ感覚

問三

~~~~線 b「声が震えている」とありますが、次の□の中で、「声」が入る慣用句として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア □で笑う イ □を冷やす ウ □を疑う エ □が痛い オ □を大にする

問四

~~~~線 1「フロアの入り口まで見送ればよかったのに」とありますが、なぜ瑛介はそうしなかったのですか。四十字以内で説明しなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

問五

~~~~線 2「がっかり」とありますが、このときの瑛介の気持ちとして適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 壮太がいなくなって入院生活が退屈になることに落ち込んでいる。
- イ 早く退院したい気持ちを母に理解されないことに落ち込んでいる。
- ウ 退院がいつになるのかはつきりしないことに落ち込んでいる。
- エ 自分がせいたくなく考え方をしてしまうことに落ち込んでいる。
- オ 入院生活の退屈さを医者がわかってくれないことに落ち込んでいる。

問六

~~~~線 3「こうでもしないと」とありますが、何をすることを指していますか。「~こと。」に続くように、本文中から十六字で抜き出しなさい。

~~~~線 4「明日から、一つ一つ飛ばそう」とありますが、このときの瑛介の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 壮太のくれた格好いい紙飛行機により、入院生活がいつそう楽しくなることを期待している。
- イ 壮太が作った紙飛行機を遠くに飛ばすことで、彼が二度と病院に戻ってこないよう祈っている。
- ウ 紙飛行機を飛ばしている間は壮太を思い出し、少しは孤独をまぎらわすことができると思っている。
- エ 壮太が忘れてしまった紙飛行機を飛ばしながら、彼の思い出をかみしめようとしている。
- オ 壮太がたくさん作ってくれた紙飛行機で十分遊ぶために、入院生活が長引いてもいいと思っている。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 花をソナ^レえる。
- ② ハイ活量を比^レべ合う。
- ③ 太平洋をコウ^レコウする。
- ④ 軒先^{のまき}にツバメのス^レがある。
- ⑤ 試合はヨクシユウに延^レ期された。

問二 次の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 容姿^レをほめる。
- ② 腹式呼吸^レで声を出す。
- ③ 祖父の墓参^レりに行った。
- ④ 銀行にお金^レを預ける。
- ⑤ 作業の能率^レを上げる。

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 問二 | 問一 | 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 | 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
| ④ ① | ④ ① | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ ② | ⑤ ② | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ | ③ | | | | | | | | 問八 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

↓ここにシールを貼ってください↓



2311100